

森美術館館長 片岡 真実 フランス共和国「芸術文化勲章」受章

森ビル株式会社(東京都港区、代表取締役社長 向後 康弘)が運営する森美術館の館長・片岡真実は、このたび、フランス共和国より、「芸術文化勲章シュヴァリエ」を受章しました。2026 年 9 月 8 日(火)に駐日フランス大使公邸にて、オフィシエを受章した塩田千春氏との合同叙勲式が執り行われ、ベアトリス・ル・フラペール・デュ・エレン大使より勲章が伝達されました。

芸術文化勲章は 1957 年に創設され、芸術ならびに文学の分野で卓越した創造活動を行った者、もしくはフランスおよび世界において藝術と文学の発展に著しく貢献した者に、フランス共和国文化省より授与されるものです。森美術館では、これまで前館長 南條史生(2016 年 オフィシエ)が受章しています。なお、初代理事長 故・森佳子は、2013 年にレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエを受章しています。



撮影：田山達之

片岡真実の受章理由について、在日フランス大使のコメント概要は次のとおりです。

「片岡さんが館長を務める森美術館は、才能、アイデア、想像力が交わる国際的な対話にとって欠かすことのできない舞台に発展しました。片岡さんの歩みは日本の国境を越え、パリのグラン・パレで開催された『塩田千春展：魂がふるえる』をキュレーションするなど、世界の数多くの機関やイベントに積極的に携わり、現代アートは決して作品の流通にとどまるのではなく、知的な開放や、考え方・見方・体験の伝達と対話を促すべきものであるという見方を常に擁護してきました。国立アトリサーチセンターでは、ポンピドゥー・センターとキュレーターの相互派遣パイロットプログラムを立ち上げ、また来たる『六本木アートナイト 2026』ではフランスが誇るアートを迎えます。以上から、また現代アートと文化対話への顕著なご貢献を称えて、フランス共和国文化大臣の名において芸術文化勲章シュヴァリエを授与します。」

【本件に関してのお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室

TEL：03-6406-6606 FAX：03-6406-9306 E-mail：koho@mori.co.jp

片岡真実(かたおか・まみ)

森美術館館長、国立アトリサーチセンターエグゼクティブ・アドバイザー、京都芸術大学大学院 ICA 京都所長。2003 年より森美術館、2020 年より現職。第 9 回光州ビエンナーレ共同芸術監督(2012 年)、第 21 回シドニー・ビエンナーレ芸術監督(2018 年)、国際芸術祭「あいち 2022」芸術監督を歴任。2027 年ヘルシンキ・ビエンナーレ共同キュレーター。CIMAM(国際美術館会議)では2014～2022年に理事(2020～2022年は会長)。一般財団法人森現代芸術財団常務理事、一般財団法人福島富岡文化財団代表理事、公益財団法人小田原文化財団評議員ほか、文化芸術に関わる諸委員会委員、国際芸術賞審査員、講演等多数。第 17 回西洋美術振興財団賞学術賞(2022 年)受賞。



撮影：新津保建秀

六本木アートナイト 2026

片岡が実行委員長を務め、2026 年 10 月 31 日(土)～11 月 1 日(日)に開催する「六本木アートナイト 2026」のプログラム「RAN Focus」では、アンスティチュ・フランセ パリ本部、在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセの助成のもとフランスのアートにフォーカスします。サンキャトル・パリ 前アーティスティック・ディレクター、ジョゼ＝マニュエル・ゴンザルヴェスのキュレーションにより、インスタレーション、映像、パフォーマンスなどをご紹介します。ぜひご期待ください。

日 時： 2026 年 10 月 31 日(土)～11 月 1 日(日)

開催場所： 六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース

主 催： 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、港区、六本木アートナイト実行委員会(国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合 ※五十音順)
※詳細は公式ウェブサイト(<https://roppongiartnight.com/>)をご確認ください。



©六本木アートナイト実行委員会



© Pascale Cholette
©六本木アートナイト実行委員会



©六本木アートナイト実行委員会

森美術館で開催したフランス関連の展覧会

ロン・ミュエク(2026 年)

ロン・ミュエクの制作活動全体を包括的に紹介する、国内 18 年ぶりの大規模個展。パリのカルティエ現代美術財団での開催(2023 年)を皮切りに、ミラノとソウルを経て、同財団との共催により森美術館で開催。

ルイズ・ブルジョワ展:地獄から帰ってきたところ 言っとくけど、素晴らしかったわ(2024-2025 年)

20 世紀を代表する最も重要なアーティストの一人、ルイズ・ブルジョワ(1911 年パリ生まれ、2010 年ニューヨークにて没)の国内 27 年ぶりの大規模個展。

シンプルなかたち展:美はどこからくるのか(2015 年)

先史時代の石器から現代アートまで、時代やジャンルを越え、世界各地から集められた「シンプルなかたち」を紹介。ポンピドゥー・センター・メス、エルメス財団との共同企画展。

フレンチ・ウィンドウ展:デュシャン賞にみるフランス現代美術の最前線(2011 年)

フランスで最も権威ある現代美術コレクターの団体「ADIAF」が主催する「マルセル・デュシャン賞」の 10 周年を記念し、マルセル・デュシャンと同賞のグランプリ受賞作家ら 28 名の作品を一挙に公開。

アネット・メサジェ:聖と俗の使者たち(2008 年)

フランスを代表するアーティスト、アネット・メサジェを紹介する日本初の大規模個展。

ル・コルビュジエ展:建築とアート、その創造の軌跡(2007 年)

20 世紀最大の建築家、ル・コルビュジエの生誕 120 年を記念し、「絵画と建築」を通して多彩な業績を紹介、その創造性に迫る回顧展。

アーキラボ:建築・都市・アートの新たな実験展 1950-2005(2004-2005 年)

サントル地域現代芸術振興基金とポンピドゥー・センターの建築コレクションを中心に約 90 名の建築家の理論と実践を紹介する、日本最大級の建築展。

フランスで開催した森美術館企画の展覧会

浮世:ジャポニズムから日本の現代アートまで(2024 年)

フランス・ノルマンディー地方ドーヴィルの文化施設レ・フランシスケヌとの共同企画展。2024 年は初の「印象派展」から 150 周年にあたり、芸術祭「Normandie Impressionniste 2024」のプログラムの一環として開催。森美術館のコレクションから 17 名、35 点を出品し、印象派の発展と深い関係にある日本文化に過去と現代の双方から光を当てた。

フランスへ巡回した森美術館企画の展覧会

塩田千春展:魂がふるえる(森美術館、2019 年)

【巡回展】

塩田千春展:魂がふるえる(グラン・パレ、2024-2025 年)

日本美術が笑う:縄文から 20 世紀初頭まで(森美術館、2007 年)

美術のなかにある「笑い」や「ユーモア」を同時開催の「笑い展」とともに模索する展覧会。日本の古美術のみで構成し、多様な日本の笑いを 5 つのテーマに分けて紹介。

【巡回展】

笑いの日本美術史 縄文から 19 世紀まで(パリ日本文化会館、2012 年)

【参考】「塩田千春展:魂がふるえる」について

片岡が企画を担当した、塩田千春氏の過去最大規模の個展「塩田千春展:魂がふるえる」は、2019 年に森美術館で開催後、世界 8 都市を巡回。グラン・パレ(パリ)では 30 万人以上が来場し、続く東洋美術館(イタリア、トリノ)での巡回展(2025 年 10 月 22 日[水]~2026 年 6 月 28 日[日])をもって、総入場者数が 200 万人を突破しました(※2019 年~2026 年に開催した 9 館の総入場者数)。

今後もカナダのモントリオール美術館(2026 年 9 月 26 日[土]~2027 年 2 月 14 日[日])への巡回を予定しています。